



2020年版

9月は世界アルツハイマー月間 認知症へ正しい理解を

世界アルツハイマーデー・月間

1994年、国際アルツハイマー病協会と世界保健機関が共同で、9月21日を「世界アルツハイマーデー」、この日を含む9月を「世界アルツハイマー月間」と決めました。毎年、世界各地で啓蒙活動が行われ、国内でも関係団体が認知症へ理解を呼び掛ける活動を展開しています。

認知症サポーターになりませんか？

町キャラバン・メイト連絡会は、公民館や企業、学校などで「認知症サポーター養成講座」を開催しています。ぜひ、ご受講ください。受講者には、オレンジリングを差し上げます。※受講無料
▼問い合わせ 矢巾町地域包括支援センター (☎ 697-5570)



オレンジリング

認知症サポーター養成講座の受講者に渡される、サポーターとしての証しです。

オレンジ色（柿色）には、江戸時代の陶芸家「酒井田柿右衛門」制作の柿色の赤絵磁器が、海外で高評価を得たことにちなみ、日本発のサポーターの認知が世界で広まることへの願いと、「手助けしますよ」という温かい気持ちが込められています。

9月は「世界アルツハイマー月間」です。アルツハイマー型を含む認知症について、正しい理解を促すための活動が世界中で行われます。本町では、認知症に対する正しい知識や接し方などを広めるため活動する組織や、地域の見守り活動を行うボランティア団体が活躍しています。

支援の第一歩は、「知ること」です。認知症の症状に加え、町で活動する団体を知り、自分の身の回りで、できることから始めてみましょう。

町キャラバン・メイト連絡会

菊池順会長(写真前列中央)



認知症サポーターを増やすための取り組みを進める「キャラバン・メイト」。町内では平成25年に連絡会を

結成し、組織的な活動で支援の輪を広めています。自治会や企業で講座を実施する他、毎年、町内の小中学校でも開催。認知症サポーターは具体的な支援活動を行う主体ではありませんが、養成講座を通して正

キャラバン・メイト

全国で、主に地域ごとに認知症サポーター養成講座を開催している「講師役」。町内では、福祉事業所の職員などが約30人が活動中。

認知症サポーター

認知症サポーター養成講座を受講し、正しい知識を持って見守りを行える「地域の応援者」。

しく認知症を理解した町民が増えることで、認知症になっても暮らしやすい地域の創出につながります。

菊池会長は「若くても認知症になる場合がある。核家族化などが進む現代では、家族以外にも正しく理解しておくことが必要」と言います。

その上で『認知症＝怖いもの』ではない。病気ではあるが感情が残っているし、接し方一つで、違った反応が返ってくる。優しさを持って接するということ意識をこの町で育んでいきたい」と話しました。

わんわんパトロール隊

田村稔彦隊長

認知症に限らず、地域の見守りに一役買っているボランティア団体。散歩の中で犬を通じたコミュニケーションの取りやすさに着目し、活動が始まりました。

田村隊長は「普段の散歩の中での活動。生活の延長線なので気負う必要はないが、その中で気が付けることは多い」と話します。

毎日ほぼ同じ時間に、決まった散歩コースを歩く中



で▽いつもすれ違う人に会わない▽郵便受けに手紙が溜まり続けている―などへの気付きが、事故などの防止につながる場合も多く、中には、認知症高齢者の保護につながった活動例もあります。

「ボランティア活動という敷居の高さがあるかもしれないが、自分たちの活動は日常の中で、肩肘張らずに続けられるもの。町内全てを網羅できるよう、隊員を集め、活動していただく」と抱負を語りました。

町地域包括支援センター

認知症地域支援推進員

鱒沢陽香さん



平成24年10月にセンター

に着任し、認知症に関する各種支援施策を実施してきた鱒沢さん。「町民が認知症について考える時間が増え、今までの取り組みが実を結んできた」と話します。

町内は若い世代が多いため、県内で2番目に低い高齢化率となっています。一方で、認知症などの高齢者を取り巻く課題への意識は高く、認知症サポーターの人口に占める割合は県内33市町村中8番目で、約6500人が講座を受講し、サポーターとなっています。

「最近、物忘れが気になる」などの認知症に関することから、高齢者の一人暮らし、高齢者のみの世帯で「今後の生活に不安がある」など、何でもお気軽にご相談ください！

ます。（8月20日現在）

鱒沢さんは「高齢化率が低い地域は、高齢者問題に関心が低いのが一般的。だが、矢巾は関心が高く、その世代も幅広い」と町の特徴を挙げました。

今後の認知症支援については、「これからの社会では、身近に認知症患者が生活していることが当たり前になる。それに向けて、活動を始めている人たちがたくさんいる。そういった人々を多くの町民に知ってほしい。そして、一人一人ができることを始めていけば、地域の力が大きくなっていくと思う」と展望しました。

主な業務

- ①相談支援 認知症患者やその家族への相談対応
- ②支援ネットワークの構築 医療、介護福祉、地域住民など、関係機関との連携
- ③社会資源づくり 地域課題を解決するために必要な地域ボランティアの組織、生活支援などに関する仕組みづくり

福祉施策の新拠点施設を開設します

町は、「介護予防・認知症施策推進拠点施設」を開設します。詳細と施設内で活動する「おれんじボランティア」については、広報やはば10月号で紹介いたします。

●主な機能 ①介護予防・認知症予防教室 ②認知症カフェ ③おれんじボランティアの活動拠点

●場所 町民センター内 ※旧町民センター食堂を改修して設置

●問い合わせ 役場健康長寿課（さわかハウス内 ☎611-2830）